

北海道新聞

平岸の歴史を訪ねて

開拓編

第21回、開拓風景②

移住者

平岸へ入植した二百人余りの移住者たちは、それぞれの開墾地をくじ引きで決めました。北は平岸3条1丁目から南は長専寺(平岸3条16丁目)のあたりまでを平岸街道沿いに東西に62区画に分け、くじに従い割りあてられた土地を開拓することとなります。この区画は、間口が四十間(約72m)で、奥行きが三百間(約550m)となっていました。郷土史「平岸百拾年」に入植者と入植位置をまとめた住宅配置図があるので、転載させていただきます(図1)。入植者の経歴については、長年その一部しかわかっていませんでしたが、水沢の郷土史家の故・小林晋一氏が昭和48年に来道し、開拓初期の留守氏旧家臣に関する「戸籍簿控」を発見したことで、その全容が判明しました。それによると、移住者65戸のうち41戸が水沢出身で、残りは青森・秋田・宮城・岩手の人々となっています。このうち水沢藩士は23戸います。年齢構成をみると、20代が48名と全体の4分の1近くを占め、10歳未満が30名に対し、50代以上が13名と非常に若々しい集団であったことがわかります(図2)。最高齢は東二番に入植した高橋運七さんの67歳です。夫婦と子供2名前後という家族構成が一般的でした。この若々しい集団が明治初期の平岸を開拓することになります。

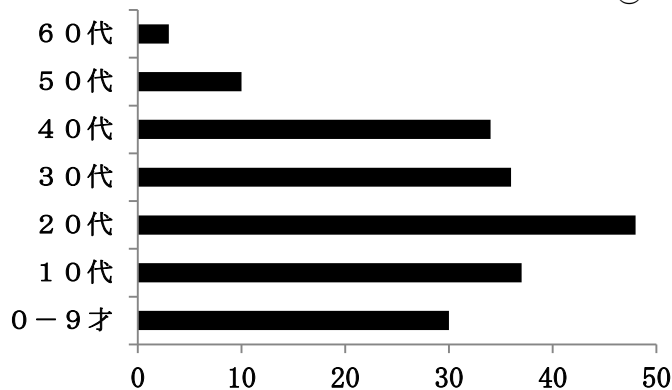


図2. 入植者の年齢構成(平岸百拾年をもとに作成)

明治4年平岸村入殖者戸主名と入殖位置(数字は地番)

西1番 小岩林助 2	東1番 金山富藏 1
西2番 佐藤雄之丞 3	東2番 高橋運七 4
西3番 東海林常治 6	東3番 小野寺安太夫 5
西4番 大平寛造 7	東4番 勝股菊五郎 8
西5番 菅原宗助 10	東5番 小川松太郎 9
西6番 鎌田幸治 11	東6番 小原安之丞 12
西7番 石川勘藏 14	東7番 壺岐正司 13
西8番 高橋慎造 15	東8番 中目文平 16
西9番 伊藤大助 18	東9番 熊谷善造 17
西10番 伊藤久助 18	東10番 20
西11番 今野松三郎 22	東11番 木村正造 21
西12番 高橋浪華 23	東12番 木村長之丞 24
西13番 椎名辨七郎 26	東13番 木村柔助 25
西14番 伊藤金五郎 27	東14番 阪本平九郎 28
西15番 松原竹次郎 30	東15番 吉田次郎 29
西16番 鈴木保平 31	東16番 柴田俊九郎 32
西17番 高橋藤次郎 34	東17番 砂金佐太郎 33
西18番 大川由右衛門 35	東18番 行方丹治 36
西19番 立野勘右衛門 38	東19番 中野瀬平 37
西20番 吉川太左衛門 39	東20番 吉田兵作 40
西21番 松井仲治 42	東21番 小幡省三 41
西22番 加原藤松 43	東22番 岩渕甚右衛門 44
西23番 早山与助 46	東23番 浅田米太郎 45
西24番 佐々木亀藏 47	東24番 千葉羽右衛門 48
西25番 星仲藏 50	東25番 今野善次 49
西26番 穴戸長左衛門 51	東26番 斎藤菊治 52
西27番 佐々木孫右衛門 54	東27番 小野寺治太郎 53
西28番 茄子川甚吉 55	東28番 高橋喜助 56
	東29番 佐藤仁左衛門 57
	東30番 大槻半五郎 58
	東31番 横田新吉 59
	東32番 伊藤善次郎 60
	東33番 永沢正藏 61
	東34番 早阪弥三郎 62

注) 北海道行政資料室蔵
 〓明治四年 札幌郡
 平岸村人別調 開墾
 掛及び「明治六年
 札幌村外十一カ村検
 地野帳 開墾掛」に
 よって作成

図1. 入植者と入植場所(平岸百拾年より転載)

移住者の暮らし

明治初期、入植者に対する開拓使の保護施策は後の時代と比較して非常に手厚いものでした。その内容を列挙すると、

- ① 扶助米(1日分) 15歳以上 玄米7合5勺、7～14歳 玄米4合、6歳以下 玄米3合
- ② 塩増料(1日分) 一家につき銀五分
- ③ 家屋 一戸建て(十五坪、建築費70～75円相当)
- ④ 小屋掛料 金五両
- ⑤ 農具 鋤2、山刀1、鎌2、鋸1、砥1、手斧1、ヤスリ1、鋤(ムシロ)10
- ⑥ 家具 鍋2、釜2、お椀人数分、手桶1、米洗い桶1、薄縁6、布団15歳以上2枚 15歳未満1枚
- ⑦ 種子代(開拓初年度のみ)
- ⑧ 開発料 移住後三年間に開拓した分に対し、一反歩につき2両支給

というものです。米と味噌は三年間は無料で現物支給され、現在の札幌駅付近に建てられていた開拓使の倉庫で渡され、それを平岸までかついで運んでいました。割り当て地は三年以内に開拓した分は私有地となりましたが、開墾できなかった土地は開拓使に没収されました。この他にも馬の貸し付けや払下げ、農産物の買い上げなど移住民に対する保護は手厚いものでした。資力に乏しい移民が、本州とは全く異なる寒冷な土地を開拓するにはこれらの保護は必要不可欠なものでした。しかし、これほどの保護があっても三年間で七戸が平岸を去っており、開拓がいかに困難だったかを物語っています。さらに、三年の支給期間が過ぎると生活できなくなり、土地を借金で取られたりして手放す人もたくさん出てきました。平岸に入植した62戸のうち今も残っているのは、東1番の金山富蔵さん、東8番の中目文平さん、東17番の砂金佐太郎さんのご子孫だけです。金山富蔵さんの妻セイさんの記録によれば、周りの人がどんどんいなくなりすっかり心細くなりましたが、富蔵さんは「陛下からいただいた土地だから」といって、だれがすすめても他へ動こうとはしませんでした。臨終のときも、「ここを動かないでくれ」と遺言し、今なお子孫の方がその土地を守っています。

参考資料

水沢市史第3巻、水沢市史刊行会

郷土誌ひらぎし、平岸小学校開校80周年記念祝賀協

平岸百拾年、『平岸百拾年』編集委員会

バックナンバーお届けいたします。ご希望の方は販売所までお気軽にご連絡ください。ご自宅までお届けいたします。

お知らせ

「平岸の歴史を訪ねて」がラジオになりました

今月より、FMアップル(76.5メガヘルツ)の情報番組APPLE PARADEに、毎月第三木曜日の午前十一時から三十分間、当連載執筆者の道新永田販売所伴野が出演いたします。初回の放送は明日4月16日で、今から3万2千年前、支笏湖が誕生したときに発生した巨大火砕流が札幌を襲い、平岸から羊ヶ丘にかけて広がる台地を作ったお話の予定。これまでの連載をベースに「身近で、わかりやすく、おもしろく」をテーマに平岸の歴史についてお話しいたします。



76.5MHz
FM Radio Station **APPLE**
4月16日11時スタート!!

執筆者：道新永田販売所営業主任 伴野卓磨

1977年室蘭市生まれ。金沢大学理学部地球
学科博士課程(古生物学専攻)を修了後、六花亭
に入社。2011年より現職。

◇発行元◇

(有)北海道新聞永田販売所

〒062-0936

札幌市豊平区平岸6条13丁目7-18

TEL: 0120-128-348

FAX: 0120-128-358

◆この連載は毎月1日・15日の北海道新聞朝刊に折り込みしています